21世紀に飛躍するドレスデン・フィル

ドイツ、ザクセン地方の古都ドレスデンからミッシエル・プラソン指揮のドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団が2年振りにやって来ます。ドレスデンは古くから芸術音楽の都として知られ、「エルベ河のフィレンツェ」と呼ばれています。美術館ではラファエロの傑作「システィナのマドンナ」やフェルメールの貴重な絵画を2点も見ることができます。市内のあちこちに戦争の爪痕がまだ残り、東西ドイツ統合による物価の上昇や失業率の増加で市民の生活は決して楽ではありませんが、音楽文化への関心は高く、ドレスデン国立歌劇場の入場率はドイツで一番、いつも売り切れです。そんなドレスデン市民の熱い支持を得てドレスデン・フィルは活躍を続けています。

1870年に創設されたドレスデン・フィルはブラームス、チャイコフスキー、ドヴォルザーク、R. シュトラウスなどの大作曲家と共演した名門オーケストラです。ハンス・フォン・ビューローをはじめとする歴代の名指揮者も指揮台に立ったことは言うまでもありません。ドレスデン・フィルは名門オケにしては珍しく指揮者への適応力の高いオケと言えます。そのドレスデン・フィルが首席指揮者にフランスの名匠ミッシエル・プラソンを迎えたことは意外な驚きでした。停滞する名門オケに新しい血を注いで生き返らせようという意欲の現れです。丁度、クルト・マズアがニューヨーク・フィルハーモニックの音楽監督になったのと同じ現象です。

ミッシエル・プラソンはフランス人指揮者のなかで現在最も実力を高く評価されている人です。長らくトゥールーズ・キャピトル劇場の芸術監督を勤め、一般市民からも敬愛されています。オペラでの実績は、アルフレード・クラウスとの数々の名盤を録音していることからも分かりますが、ドイツ音楽は前回のドレスデン・フィルとの来日まで未知のままでした。フランス音楽とドイツ音楽は一般に水と油とされていますが、ドイツ音楽を得意とするフランス系の演奏家は全くいないわけではありません。少数の一流演奏家だけですが、ピアニストではかつてのイーヴ・ナット、現在のエリック・ハイドシェックがそれにあたり、指揮者ではシャルル・ミュンシュ、そしてミッシエル・プラソンです。

コンビを組んで3年目を迎え一層息の合ったプラソン、ドレスデン・フィルが醸し出すこのオーケストラ独特の柔らかな響きと新鮮な現代感覚を備えた演奏は聴きのがすことの出来ないコンサートとなるでしょう。

ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団
Dresdner Philharmonie

ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団は、1870年に創設され、すでに120余年の歴史を持つオーケストラで、当初は演奏会場の名を冠した商工会議所管弦楽団と呼ばれていた。1888年に、チャイコフスキーの指揮で彼の交響曲第4番を、89年にはドヴォルザークの指揮で彼の交響曲第5番を演奏したほか、ブラームス、ハンス・フォン・ビューロー、R.シュトラウス、ブゾーニ、ラフマニノフとも共演している。

第二次世界大戦のため、一時解散を余儀なくされたが戦後再編成、クルト・マズア、ギュンター・ヘルビッヒが音楽監督に就任してから安定し、94～95のシーズンから、これまで「招待第一指揮者」であったミッシエル・プラソンを首席に迎えることとなった。ドイツらしい味わいの中に、ドレスデン独特の柔らかい響き、新鮮さと現代感覚を備えた演奏は多くのファンを魅了している。

首席指揮者：ミッシェル・プラソン
Chief Conductor: Michel Plasson

1933年パリの音楽家の家庭に生まれる、パリ音楽院で、ラザール・レヴィにピアノ、ウージェーヌ・ビゴーに指揮法を師事し、1963年ブザンソン国際指揮者コンクールで最優秀賞を受賞。その後アメリカに渡り、ストコフスキー、バーンスタインやラインスドルフの指導を受ける。1965年に帰国し、東フランスのメス歌劇場の主任指揮者となり、1968年にはトゥルーズ市立歌劇場の常任指揮者となり、音楽総監督を経て1973年には芸術総監督となった。プラソンは同歌劇場のオーケストラ、トゥールーズ国立管弦楽団とのコンサート活動も積極的に行った。そして、フランス各地の名門オーケストラに客演する一方、1974年にはニューヨーク・シティ・オペラ、77年にはメトロポリタン歌劇場のデヴューも果たしている。1992年、芸術・文化賞を受勲。レジョン・ド・ヌール四等勲章を受勲。1994年のシーズンからドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者にも就任した。

SLUB
Wir führen Wissen.
Dresdner Philharmonie